

慶應義塾大学 日吉の森の保全をすすめています。



慶應義塾大学日吉キャンパスには2つの顔があります。一つは大学生が学ぶアカデミック空間の相貌。日吉駅前から校舎群へ向かう学生の波は都市型大学の賑いそのものです。もう一つは記念館の東に山地のように広がる緑の世界。市街地の直中にありながら多様な地形と広い森を擁する一大自然拠点という顔です。

面積 35ha をこえる日吉キャンパスは日吉台地に位置しています。台地平坦面は学校施設の用地として集中的に利用され、谷戸の谷底にはスポーツ施設が配されていますが、斜面・崖地の大半は、雑木林を中心とする広い森に覆われています。多様な地形上に展開するキャンパスの林地は、生物多様性の拠点でもあります。キツツキやタカの仲間を含む鳥類、イタチ、タヌキなどの哺乳類、クワガタムシ、カブトムシなどの昆虫類、多様多彩な在来植物群を含め、1300 種をこえる生物種が確認されています。中でも最大

の谷戸である「まむし谷」は広い斜面林や水辺を擁し、谷戸山生態系のモデルのような様相を呈しています。緑濃い日吉キャンパスは地域の一大自然拠点として、自然保護にかかわる行政や市民から、大きな注目をあびています。

自然の一大拠点・日吉キャンパスは、しかし危機の自然域でもありました。まず森の危機。雑木林の過半はここ数十年来、日常的な管理を受けておらず、主要樹種の大木化、シュロやシロダモなど常緑樹の侵入が進んでいました。散在するスギ植林地も密植やツル植物の進出で枯木が目立つようになっており、ようやく、ここ数年択伐管理が始まっています。急傾斜地には崩壊や倒木の危険もあります。近年2度にわたる崩壊の跡地はいずれもササ原等が進出し、森林回復が遅れています。水循環の破壊も懸案です。谷戸地形には湧水が付きものですが、キャンパスの谷戸域ではいずれも暗渠に誘導され、地上の流れや水面はほとんど確認できなくなりました。水循環系の回復は、日吉の谷戸の総合的な自然回復の要です。

このような状況を受け、自然の豊かさやその危機に関心の深い教員・学生による、まむし谷の保全／回復作業が始まっています。都市型大学の賑いと回復を待つ深い緑。環境回復への関心の高まりの中、日吉の台地における2つの相貌の共存は、キャンパス文化の新たな個性ある統合を誘発してゆく可能性ありと私たちは考えています。そんな可能性もぜひ先買いしていただき、森と水循環を回復する作業に、多方面から御支援を期待しております。



移植したシデコブシが開花（2011年4月）

ご支援お待ちしております

日吉丸の会は、1990年代はじめから、日吉キャンパスとその周辺のランドスケープや自然の散策、調査、保護活動などを行ってきた教員／学生の有志集団です。

日吉丸の会の通信「一の谷の風」が合本になりました。慶應大学日吉キャンパスの雑木林・水辺再生活動の記録です。本書をお手にとっていただき、日吉キャンパスの雑木林・水辺再生活動への継続的なご支援・ご協力をお願い申し上げます。

『一の谷の風』

～慶應大学日吉キャンパス・まむし谷・一の谷 雑木林・水辺再生活動の記録～

定価：1,000円

製作・発行：慶應義塾大学・日吉丸の会

協力：NPO 法人鶴見川流域ネットワーク

慶應義塾大学・日吉丸の会

代表 岸由二 慶應義塾大学教授 / 生物学

事務局：慶應義塾大学日吉キャンパス 第二校舎301岸研究室内

電話：045-566-1332 E-mail: qyc00045@nifty.com

URL: <http://www.geocities.co.jp/NatureLand/4964/>



慶應義塾大学
日吉キャンパスは
日吉丸のかたち

一の谷の風

慶應大学日吉キャンパス・まむし谷
一の谷 雑木林・水辺再生活動の記録



慶應大学・日吉丸の会